

## ■ 都市課題

竹芝地区は都市再開発により人口や来街者の急増が見込まれており、混雑回避、防災力の強化等が必要である。

## ■ 解決方策

バーチャル竹芝で様々な人流シミュレーションを実施し、地域で防災に関する認識を共有し、地域の防災対応力を強化する。

## ■ KPI

- ✓ ・バーチャル竹芝上で更新する施設数：10～20施設
- ✓ ・エリア内データの取得を目的としたカメラ設置：5箇所
- ✓ ・防災情報認知度向上(地域関係者へのアンケート実施)：80%
- ✓ ・バーチャル竹芝の避難シミュレーションパターン：3件

## ■ 実証実験の概要・目的

3D都市モデルと先端テクノロジーを活用した市民参加型まちづくりの実現を目指し、地域課題である防災対応力強化のため、**バーチャル竹芝に人流シミュレーション機能を付加してまちづくり活動で活用**し、まちづくりシミュレーションツールとして3D都市モデルの有効性を検証する。

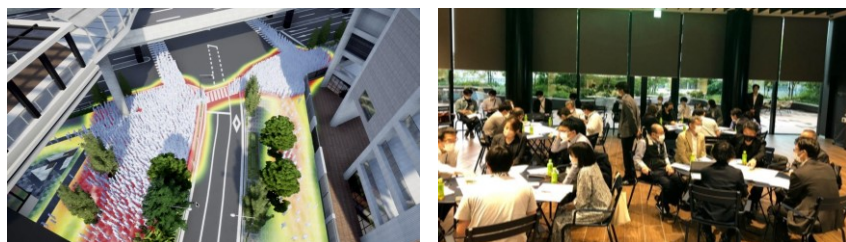
## ■ 実証実験の内容

### 実証実験の内容

- ✓ まちの混雑状況等に関する変数（各駅に向かう人数比率等）を操作した6つのシミュレーションパターンを作り、地区内の施設運営者等に提示

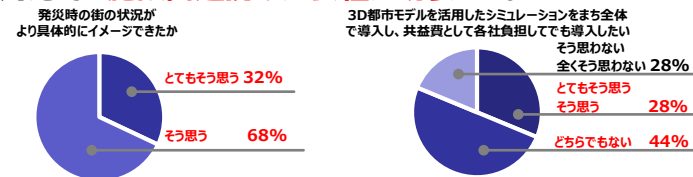


- ✓ 災害時の交通機関復旧後に生じる街の課題について、2Dの地図を見る場合と、3D都市モデルを見る場合での認識や課題感の差異や、3D都市モデルを導入する有効性について検討
- ✓ 「3D都市モデルのわかりやすさ（活用意義）」や「防災対応での施設間連携の必要性」の2つを軸としたアンケートを実施



## ■ 実証実験で得られた成果・知見

- ✓ 目標達成の観点  
⇒ **発災時の街を具体的にイメージさせ、共通認識を持つことに役立てることができた。**また、避難シミュレーションは6パターン実施し、エリア内にカメラは計8台設置した。
- ✓ 持続可能性の観点  
⇒ 有用性は認識したが、費用負担に関しては意見が分かれた。初期費用が高額なため、他エリアでの公共的な3Dシミュレーション整備の場合、行政が主体での整備が適切との意見もあった。
- ✓ 役割、体制の観点  
⇒ 防災対応での**施設間連携の必要性が明らか**になった。



## ■ 今後の予定

他地区への導入については、初期開発にかかるコストが課題として考えられるため、導入効果が大きそうな地域を絞り実証的に導入を検討する。

